

タイトル	<i>Library Lion</i>				
著者（文・絵）	Michelle Knudsen（文）・Kevin Hawkes（絵）				
出版年	2006年	出版社	Candlewick		
翻訳版	『としょかんライオン』福本友美子訳、岩崎書店、2007年				
総語数	1,373語	ページ数	48ページ	YLレベル	N/A
あらすじ					
<p>ある日、町の図書館にライオンがやってきます。図書館員のマクビーさんは慌てて図書館長のメリウェザーさんに報告します。「図書館にライオンがいます！」ところが、メリウェザー館長の答えは、「規則を守っているなら問題ありません。」ライオンは、図書目録カード（懐かしいですね！）の匂いを嗅いだり、絵本の部屋で寝てしまったり、子どもたちと一緒に読み聞かせを聞いたりします。次第にお手伝いもするようになり、本のほこりを払ったり、本を運んだりするうち、図書館の利用者たちは図書館にライオンがいることを心地よいと思うようになります。ただ、マクビーさんだけがなんとなくおもしろくありません。そんなときに、メリウェザー館長が高い書棚の上にある本を取ろうとして転倒し、腕を折ってしまいます。そばで見ていたライオンは、急を知らせにマクビーさんのところへ走ります。図書館内で走るのは規則違反です。さらに、ライオンは言葉が話せないので、メリウェザーさんが怪我をしたことを知らせるために大きな声で吠えました。これも規則違反です。規則を破ったライオンは図書館に出入りすることができなくなります。この事態に、マクビーさんやメリウェザーさんはどうするのでしょうか。</p>					
紹介					
<p>絵本を読むことが、ただただ心地よい体験であることを教えてくれる絵本です。私は、幼い息子に読み聞かせる目的で日本語版を購入したのが、この絵本との出会いでした。どういうわけかこの絵本が気に入ってしまった息子が、毎晩のようにこれを読めとせがみますので、もう何度読み聞かせたか覚えていないくらい読みました。ライオンが図書館にやってくる、という非日常的な設定以外には、冒険と呼べるような大事件が起こるわけでもない物語ですが、なぜか読んでいるとわくわくします。もしかしたら、これは「図書館効果」なのかもしれません。図書館という場所で本に囲まれている時間の心地よさともいえるのでしょうか。私のお気に入りのページは、図書館内の読み聞かせの時間に、子どもたちとライオンが仲良くお話を聞くところです。寝そべるライオンの柔らかそうな毛皮に寄りかかって子どもが本を読んでいるページにも惹きつけられます。これらの絵は、図書館のあるべき姿を示しているように思われます。</p> <p>2019年に公開され話題となったドキュメンタリー映画『ニューヨーク公立図書館』の舞台であるニューヨーク公立図書館入口にも、2頭のライオン像があります。絵本の図書館のモデルは、献辞に“In loving memory of Carol J. Buckley, shining star of the Cornell University Library”とあることからコーネル大学図書館のようですが、著者のヌードセンがニューヨーク在住ですし、ニューヨーク公立図書館のライオンはあまりにも有名ですから、こちらモデルになっているかもしれません。ライオンでさえも受け入れてしまう</p>					

絵本の中の図書館と、本や教科書を買う余裕のない市民、図書館に来るほかに文化的活動に触れる機会のない市民に、広く図書館を利用してもらおうと努力を惜しまないニューヨーク公立図書館には、どこか相通じる理念が感じられます。

指導ポイント、授業活用例、学生の声など

【授業活用例】

➤ 絵本を読んでブックレポートを書く活動

本 HP にて紹介している他の絵本数冊と組み合わせて行います（どの絵本でも可）。例えば5冊の絵本をクラス全員に読ませ、一番好きな絵本を選んでもらいます。そして、なぜその本が一番いいと思ったのか理由を英語で書きます。例えば、以下のような簡単なフォーマットを提示すると、英文でブックレポートが書きやすいでしょう。

<ブックレポート例>

I chose _____ as my favorite picture book.

The 1st reason is that _____ .
supporting sentences→

The 2nd reason is that _____ .
supporting sentences→

For these reasons, I like _____ best.

関連作品・参考 URL

【Kevin Hawkes による他のお薦め絵本】

- *Weslandia* (Paul Fleischman (文) Candlewick (絵), 2002) (『ウエズレーの国』千葉茂樹訳、あすなろ書房、1999年)

(文責：深谷素子)